

クラス番号	605	担当教員名	伊藤 貴啓
テーマ	児童自立支援施設・児童養護施設・自立援助ホーム等、 社会的養護における子どもの自立支援と権利擁護		
著書・論文	「児童虐待の防止等に関する法律と児童自立支援施設」『日本の児童福祉 19』 全国児童養護問題研究会・全国児童相談研究会 2004		
研究課題等	「次世代を担う子どもたちの心の居場所―『親友といえる友がいない』と答える子―」(共著)『青少年育成研究』第 4 号 日本青少年育成学会2004		
	『保育士をめざす人のための福祉施設実習』(共著)愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会 編(株)みらい2006		
	『幸せな明日を信じて』(共著)長谷川真人監修 福村出版2008		
	『児童養護と青年期の自立支援』(共著)ミネルヴァ 書房2009		

ゼミナール概要

キーワード: 児童養護施設 児童自立支援施設 自立援助ホーム 子ども虐待 司法福祉 子ども福祉 社会的養護

目的、内容、方法等：

家庭養護あるいは社会的養護において、「子どもは愛されるために誕生し、そして愛される中で発達課題を獲得しながら、個性豊かに育っていく。」といったことが、すべての子どもたちに保障されるためには、今、どんなことが障壁になっているのでしょうか。そして、どうすれば解決していけるのでしょうか。

ゼミでは、児童福祉施設・子ども専門病院などを見学したり、子ども福祉に関する視聴覚教材や、子ども虐待に関する作文集や実践事例から学んでいきます。また、子どもに関するボランティア活動などを通して、現場での実践から体得することも重視します。そして学外での活動の報告会を随時行い、それぞれの「学び」がみんなのものになるようにしていきます。さらには、全国児童養護問題研究会・学内学会・司法福祉学会・全国児童相談研究セミナー等へ参加することによって、更に今日的な問題に関する意識や理解を深めて欲しいと思います。

授業計画：

3年次には、学習・研究活動を行う中で、それぞれが問題意識を高め、自主的に研究する基礎を築いていきます。4年次は、その研究や学びを生かして更に研究を深め、卒論に専念できる一年として位置づけます。また、2年間の活動を通して、「そだちあう仲間」として、相互に協力しあい励ましあいながら、卒論や国試、就職活動に取り組んでいけるゼミになるように願っています。

使用テキスト：

『幸せな明日を信じて』(共著)長谷川真人監修 福村出版 2008 年

担当教員からのメッセージ



担当者は、名古屋市及び三重県の教護院～児童自立支援施設の職員として 13 年間、子どもたちと接してき

ました。現在は児童養護施設・自立援助ホームの職員、子育て・子育て支援に関わる人たち、児童養護施設出身の当事者等との交流が多くなっています。そのような立場から、児童福祉臨床における子どもの権利擁護と職員の専門性や子育て支援・自立支援等の研究について、アドバイスやサポートをしていきます。